

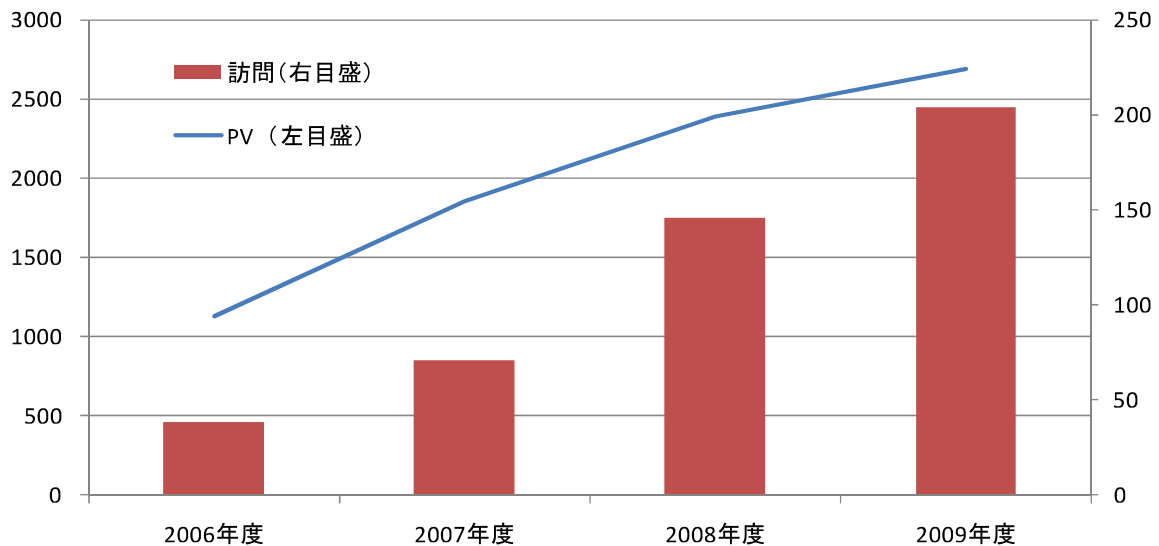
## 第7章 システムの利用活用状況

### 1. サイトへのアクセスとトップページのアンケート等による利用状況

#### (1) 公開以降のアクセスの推移

図表 7-1 に 2006 年の公開以降のサイトへのアクセスの推移として、PV（ページビュー）と訪問の件数を示した。PV はサイトに全体において何画面が表示されたかを示しており、訪問はのべ何回サイトが利用されたかを示している。訪問は年度ごとに約 2 倍に増加している。PV は公開の翌年度は約 6 割増加し、その次の年度には 3 割増加したが、2008 年度から 2009 年度にかけては 1 割強の増加となっている。この点に関しては次のようなことが考えられる。

図表7-1 年度毎の PV（ページビュー）と訪問（単位：万件）



注) PV：ページビュー（折線グラフ、左側目盛）と訪問（棒グラフ、右側目盛）。解析ソフトウェアは 2008 年 12 月までは SiteTracker 7.5 Professional、その後は SiteTracker 8.1 Standard Edition である。

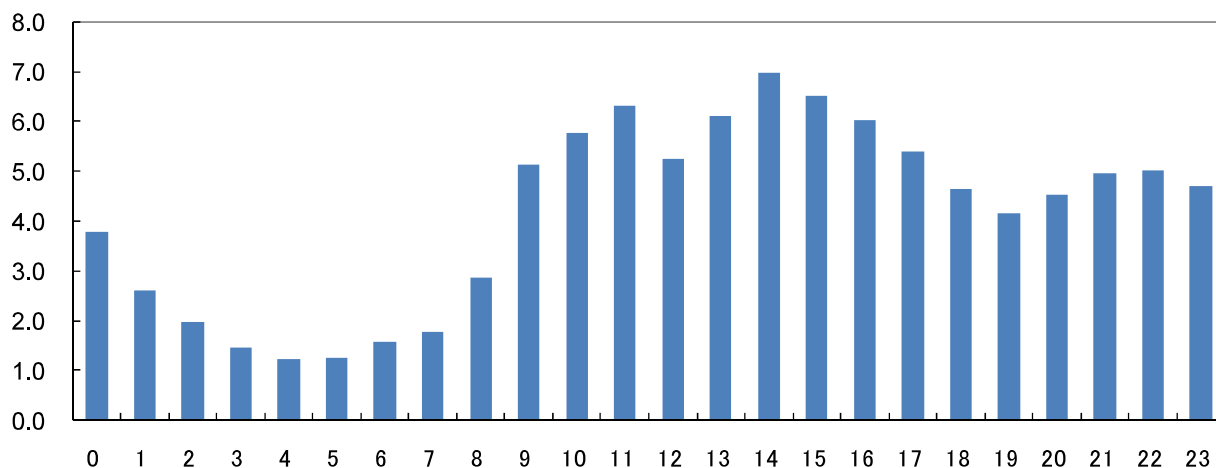
PV と訪問に関しては一般に訪問 1 に対して PV が約 20、すなわち一回の訪問で 20 画面見られるとされている。当サイトに関して、この PV と訪問の関係をみると、2006 年度に 29.0 : 1 であったものが、2007 年度には 26.0 : 1、2008 年度には 16.4 : 1、2009 年度には 13.1 : 1 と一貫して 1 回の訪問でみる PV が少なくなっていた。

このようになる原因は、第一に、利用者がキャリアマトリックスの利用に慣れ、無駄なクリックや画面表示が減り、必要な画面のみを表示するようになったことが考えられる。これは、ある意味的確な利用がされるようになってきていることを意味する。第二に、グーグル等検索サイトにおいて、キャリアマトリックスの内部までインデックスされるようになってきたため、検索サイトから直接サイト内に訪れ、直接特定の職業情報の画面を見て、短く情報を閲覧する利用の仕方も増えていることが想定される。

(2) アクセスの1日、1週間、年間の推移

図表7-2に一日の中でのアクセス(PV)の変化を示した。図の4とは5時までの4時台を示しているが、4時台に利用が最も少なくなり、午前中の9時台、10時台、11時台と増加していく。12時台にやや利用が減少するが、13時よりまた増加し、14時台に最も利用が多くなっている。その後、利用は減少するが、夜間の21時台、22時台にも小さな山が見られる。この山は自宅に帰ってから利用しているものと考えられる。

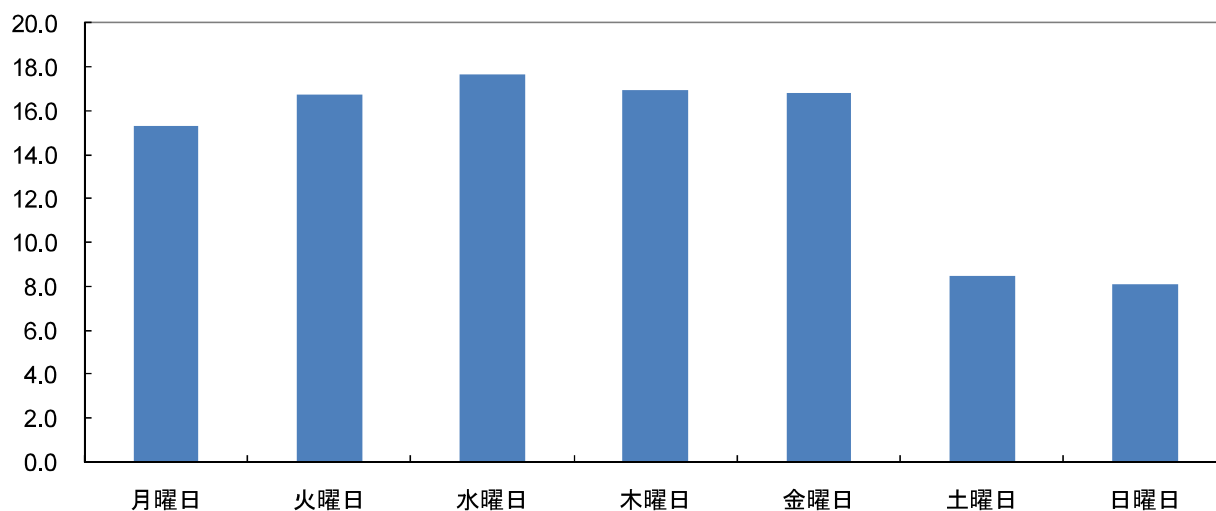
図表7-2 一日の中でのアクセスの推移(%)



注) 2009年9月から2009年12月までのページビューを時間毎に集計し、割合(%)を出した。横軸は時間であり、0とは深夜0時より1時まで、1とは深夜1時より2時までを示し、以下同様に表示。

図表7-3に月曜からの一週間の中でのアクセスの推移を示した。平日が多く土日の週末は利用が少ない。

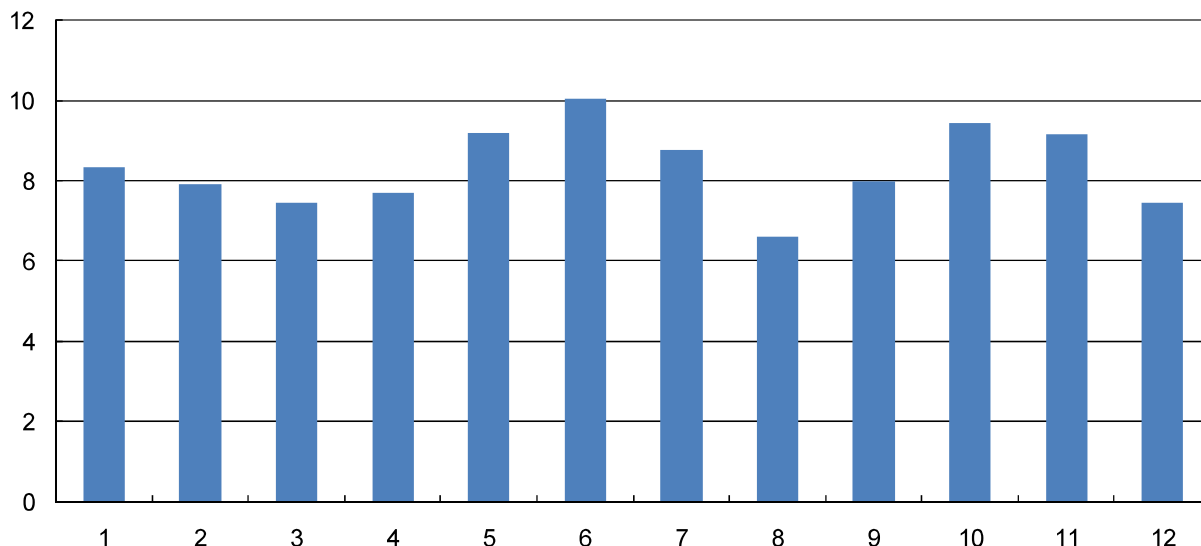
図表7-3 一週間の中でのアクセスの推移(%)



注) 2009年9月から2009年12月までのページビューを曜日毎に集計し割合(%)を計算。

図表 7-4 に 1 月から 12 月の 1 年間のアクセス数を示した。5～6 月と 10～11 月の二つのピークがあり、学校が休みとなり、お盆や年末年始で求職活動も少なくなると考えられる 8 月と 12 月はアクセスが減少している。

図表7-4 一年の中でのアクセスの推移（％）

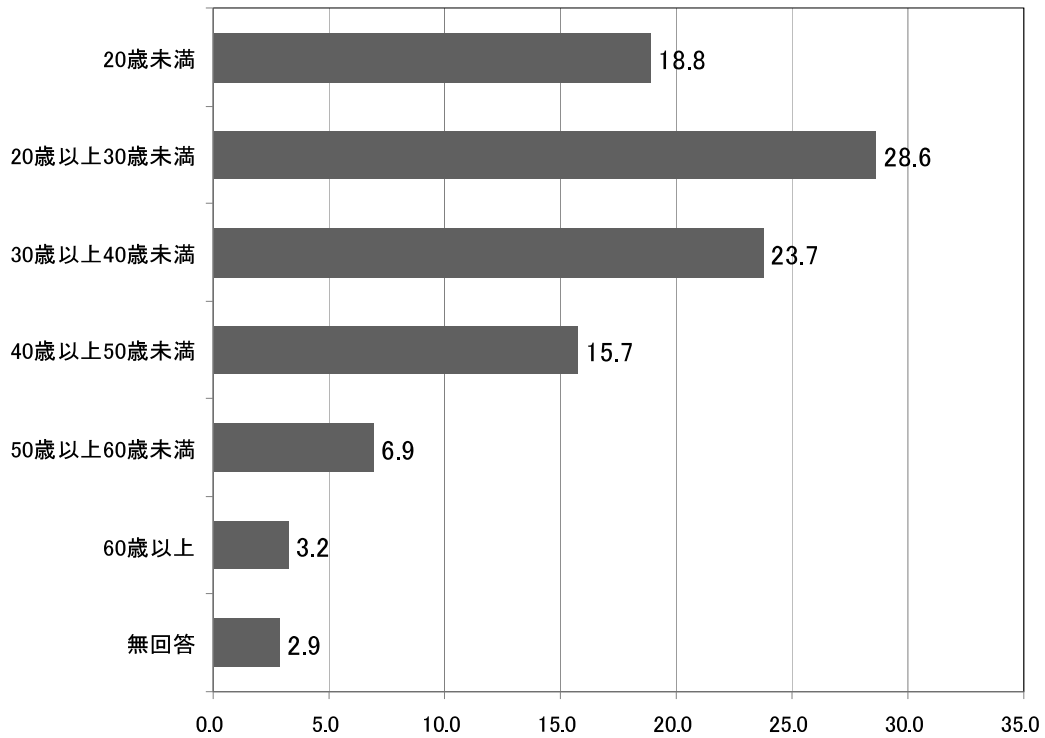


注) 2007 年、2008 年、2009 年のページビューを月別に合計し、割合（％）を出した。

### （3）トップページのアンケートにみる利用者の状況

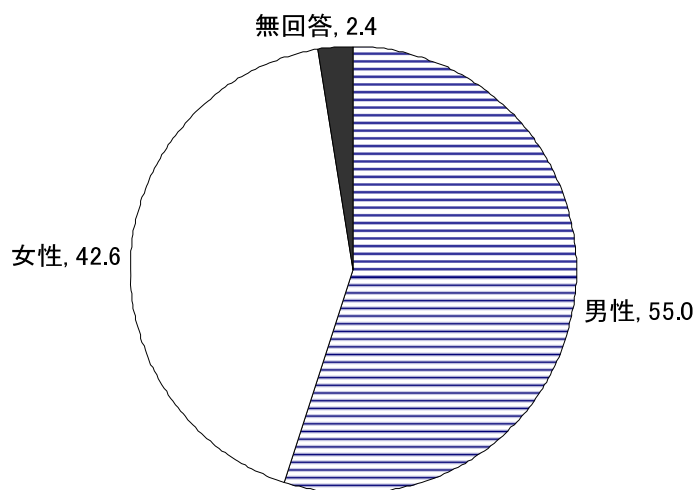
キャリアマトリックスがどのような人に、どのような目的で参照されているのかについて、システムのトップ画面において、簡易な利用者アンケートを行ったところ、2008 年 9 月 4 日から 2010 年 2 月までの間に 6 千件余りの回答が集まった（図表 7-5、図表 7-6、図表 7-7、図表 7-8）。回答結果を見ると、性別では男性がやや多かった。年齢では 20 歳以上 30 歳未満が最も多く、次が 30 歳以上 40 歳未満となっているが、20 歳未満から中高年まで幅広い年齢層で活用されていることがわかる。利用目的では「求職、転職（社会人）」が最も多いが、「就職活動（学生）」、「進路学習」も多い。次項で紹介するように、中学生、高校生が PC 教室等で職業教育等の一環として、本システムを利用している例も多いが、このような授業中にはアンケートには回答しないと考えられるため、生徒学生の実際の利用割合は、この結果よりは多いと考えられる。

図表7-5 利用者の年齢



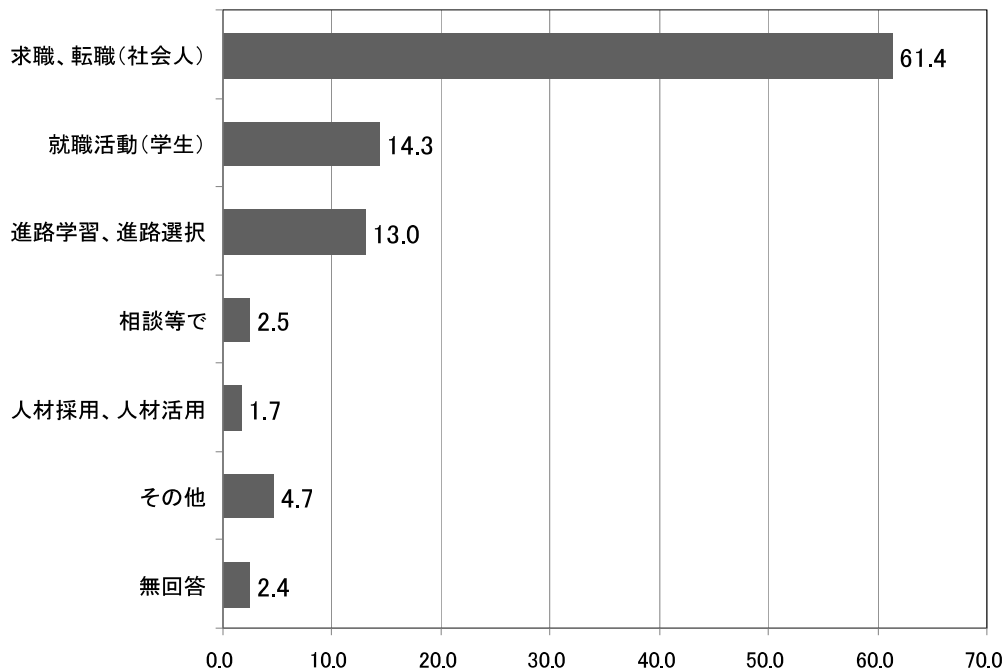
注) 1 アンケート実施期間は2008年9月4日～2010年2月2日  
2 アンケートの回答は利用者の自由意思による。

図表7-6 利用者の性別



注) 1 アンケート実施期間は2008年9月4日～2010年2月2日  
2 アンケートの回答は利用者の自由意思による。

図表7-7 利用目的



注) 1 アンケート実施期間は2008年9月4日～2010年2月2日  
 2 アンケートの回答は利用者の自由意思による。

図表7-8 男女年齢別の利用目的

性別	利用目的	20歳未満	20歳以上 30歳未満	30歳以上 40歳未満	40歳以上 50歳未満	50歳以上 60歳未満	60歳以上	(無回答)	総計
		男性	1 求職、転職(社会人)	38	615	736	516		
	2 就職活動(学生)	195	247	11	1	3	12	7	476
	3 進路学習、進路選択	258	58	37	16	7	12	7	395
	4 相談等で	4	13	23	18	12	10	2	82
	5 人材採用、人材活用	2	11	22	10	8	8	3	64
	6 その他	38	29	23	27	7	18	4	146
	7 (無回答)	15	17	14	6	5	5	32	94
男性 集計		550	990	866	594	312	159	90	3561
女性	1 求職、転職(社会人)	38	531	545	338	102	23	19	1596
	2 就職活動(学生)	201	209	3		1	4	10	428
	3 進路学習、進路選択	350	43	15	14	1	1	6	430
	4 相談等で	2	11	24	16	10	7	6	76
	5 人材採用、人材活用	6	9	11	9		2		37
	6 その他	42	28	29	25	10	7	3	144
	7 (無回答)	3	6	6	9	2		21	47
女性 集計		642	837	633	411	126	44	65	2758
(無回答)	1 求職、転職(社会人)	2	14	25	11	5	1	14	72
	2 就職活動(学生)	10	8	1		1		4	24
	3 進路学習、進路選択	11		2	1		1	3	18
	4 相談等で					1		3	4
	5 人材採用、人材活用		1	1		1		5	8
	6 その他	2	1	2		2	2	3	12
	7 (無回答)	3	1	6	2	1	3		16
(無回答) 集計		28	25	37	14	11	7	32	154
総計		1220	1852	1536	1019	449	210	187	6473

注) 1 アンケート実施期間は2008年9月4日～2010年2月2日  
 2 アンケートの回答は利用者の自由意思による。

#### (4) アクセスログの解析による利用者の状況

図表 7-9 に 2010 年 4 月 1 日～2010 年 4 月 26 日のアクセスログを解析し、判明した利用機関を示した。プロバイダー経由の利用が PV の約 73%、訪問の約 66%を占めている。国内の学校等からの利用も一定の割合となっているが、自らドメインを持たずプロバイダー経由で利用している中学、学校等はプロバイダー経由に含まれることから、実際の学校等の利用はこれよりは多いと考えられる。

一方、大学に関しては自らの IP アドレスを有するところが大半である。アクセスログより同期間にアクセスのあった大学を解析したところ、大学と特定できたものは 414 校であった。文部省学校基本調査 22 年速報によると（平成 22 年 5 月 1 日現在の調査）、大学数は 778 校であることから、この間だけで 53.2%の大学からアクセスがあったことになる。

また、Sitetracker による解析で 2009 年 9 月から 2010 年 4 月までの間のサイト経由の状況を見ると、不明のものが多きもの（PV の 70.1%、訪問の 74.9%）、判明した分に関しては、Yahoo からが PV では 10.6%、訪問で 7.4%、Google からが PV で 5.0%訪問で 4.2%、ハローワークインターネットサービス（hellowork.go.jp）からが PV で 3.8%、訪問で 4.0%であった。ハローワークインターネットサービスにキャリアマトリックスへのリンクボタンが配置されており、求人情報を見る際の参考として、職業情報を確認するために当サイトを見た人が多いと考えられる。

図表 7-9 4 月のアクセスログからの利用機関判明分

区分	オンライン状態の 合計時間	ビューの合計	訪問数の 合計	ビューの 構成比	訪問数の 構成比	アクセス 組織数	アクセス IP数
国内の学校	1,759,185	79,895	5,311	4.97%	3.31%	597	1,856
教育センター	293,196	13,822	549	0.86%	0.34%	20	142
教育ネットワーク	230,120	6,654	640	0.41%	0.40%	22	263
教育委員会	79,281	3,465	280	0.22%	0.17%	21	33
教育研究所	12,517	341	37	0.02%	0.02%	4	20
能力開発校	4,160	248	45	0.02%	0.03%	10	14
能力開発施設	12,635	484	57	0.03%	0.04%	15	27
海外の学校	12,193	401	107	0.02%	0.07%	33	37
学校関係小計	2,403,287	105,310	7,026	6.55%	4.38%	722	2,392
プロバイダー・官公庁・民間企業など	25,339,808	1,175,811	105,129	73.11%	65.61%	2,579	39,219
Bot	99,405,297	245,181	36,921	15.25%	23.04%	8	2,764
JILPT	5,227,600	19,312	1,071	1.20%	0.67%	2	11
厚生労働省	307,942	8,394	969	0.52%	0.60%	6	126
一般小計	130,280,647	1,448,698	144,090	90.08%	89.92%	2,595	42,120
不明	874,962	54,194	9,128	3.37%	5.70%	9,124	9,124
合計	133,558,896	1,608,202	160,244	100.00%	100.00%	12,441	53,636

注) 2010 年 4 月 1 日～2010 年 4 月 26 日のアクセスログを解析し判明した利用元。

#### (5) サイトへのリンクを設定している学校、組織等とパンフレット送付先

別の角度からキャリアマトリックスがどのように利用、活用されているかみるため、キャリアマトリックスにリンクを設定している学校や組織のサイトと、キャリアマトリックスを紹介したパンフレットの送付先を整理した。

Yahoo!が提供しているサイトエクスプローラーによると、キャリアマトリックスには全体で約7万5千のリンクが貼られている。そのうちの一部(1,000サイト)はYahoo!よりサイト名が提供される。この1,000サイトに関して、ダブリや不明を除き整理した結果、234のサイト名が判明し、その内訳は図表7-10の通りであった。Yahoo!より提供される1,000サイトに限った分析であり、全体の傾向を必ずしも示すものではないが、学校関係では大学が多い。学校以外では地方の公的機関、民間会社が多い。

図表7-10 リンクを設定している学校、組織等の一部(2010年4月現在)

	学校、組織	度数
1	小学校	3
2	中学校	6
3	高校	7
5	大学	63
6	専門学校等	4
7	国等公的機関	15
8	地方公的機関	72
10	民間会社	64
	計	234

図表7-11 紹介資料送付先(2006年9月から2010年3月)

区分	項目	回数	枚数
1	労働局、ハローワーク	47	25,800
2	能開機構、ジョブカフェ	33	10,010
3	その他の相談機関等	29	13,640
5	大学	68	37,170
6	短大、専門学校	16	8,190
7	高校、中学	18	8,250
8	その他の教育機関等	6	1,540
9	個人、企業	8	5,622
	計	225	110,222

図表7-11はキャリアマトリックスの紹介用資料の送付先と送付枚数を集計したものである。紹介用資料とは、キャリアマトリックスの周知のため、A4を三つ折りにした簡単な内容の紹介とアドレス等を記述した資料である。送付した資料は、ハローワーク等では資料コーナーで掲示・配布したり、相談の中で参考になる資料として渡したり、また、学校では授業の中で資料として配布されたりした。この紹介資料は先方の求めに応じて送付しており、数

字はのべの回数と枚数である。図表 7-11 によれば、大学が 68 回と多いが、「労働局、ハローワーク」、「雇用能力開発機構、ジョブカフェ」、「その他の相談機関」を合計すると 109 回、約 5 万枚と相談機関での配付が多くなる。トップページアンケートの結果同様、求職や転職の社会人が多く、次いで、大学生の就職活動やキャリア教育が多いと言えよう。

#### (6) グーグルのページランクとグーグル検索結果の第一画面

グーグルのページランクはグーグルの検索に用いられるサイト評価の基準であり（図表 7-12 参照）、詳細は公表されていないが、どの位多くのサイトからリンクが設定されているかが大きな要素になっているとされる。このページランクによると、キャリアマトリックスはミラーサイトとともに双方がページランク 6 である。グーグルのページランクは 1~3 のサイトは標準サイト、4~6 のサイトは人気サイト、7~9 のサイトはポータルサイト他とされており、ページランク 6 とは人気サイトの最上位、ポータルサイト他の一つ手前ということができる。

グーグルにおいて検索の結果、最初のページになるサイトは主要なサイトであり、グーグルでの最初のページになるよう、多くのサイトでは SEO（検索エンジン最適化 Search Engine Optimization）対策が行われる。キャリアマトリックスは「キャリアマトリックス」では当然ながらグーグルにおいてトップに表示され、「キャリア」で検索しても最初のページの 10 サイトの内 5 番目に表示される（2010 年 10 月現在）。「マトリックス」で検索しても映画のマトリックスが幾つか表示され、それに続き最初のページに表示される。キャリアマトリックスでは特段の SEO 対策等は行っていないが、キャリアマトリックスへのリンクが多く、また、アクセスと、利用者が多い結果であると言えよう。

図表 7-12 グーグルのページランクと例（2010 年 10 月現在）

ページ ランク	例
10	ホワイトハウス
9	国連、米国連邦議会、米国議会図書館、米国マイクロソフト、米国 Yahoo!
8	米国労働省、国立国会図書館、東京大学、早稲田大学、Yahoo!Japan
7	厚生労働省、東京都、日本マイクロソフト、検索サイト goo
6	北海道、沖縄県、新宿区、練馬区、横浜市、東京都立図書館
5	千代田区、板橋区、西東京市、鎌倉市、藤沢市、富士見市、埼玉県立図書館
4	練馬区立図書館、朝霞市立図書館、東京都立墨東病院、東京都立大塚病院
3	和光市、三浦市、神奈川県立湘南高校、鎌倉市立御成小学校
2	鎌倉市立御成中学校、鎌倉市立大船中学校、鎌倉市立深沢中学校
1	一般個人のブログ、等



## 2. 利活用の類型

### (1) 学校等における活用

2010年4月末、キャリアマトリックスを利用している高校、大学等に利用内容等に関する電話等ヒアリング調査（計60件）を行ったところ、利活用の類型は、学校段階別に次のようなものであった（図表7-13）。

図表7-13 学校等におけるキャリアマトリックス利活用の状況

学校等での活用事例(60件)			利用活用の類型			
学校等	学科他	件数	職業調べ	キャリアガイダンス	就職活動	教職科目等
中学校		2	○			
高等学校	普通	4		○		
	商業・工業・総合	5		○	○	
	通信制・定時制	3		○	○	
短大・専門学校		6		○	○	○
大学	就職部／キャリアセンター等	19			○	
	キャリアデザイン等の授業	12		○		
	教職科目(進路指導等)	6				○
その他	展示会、面接会	3		○	○	

#### 1) 中学校における活用

中学校においては、適職探索ナビから見出された適職群から職業を検索することにより、職業に興味を持ち、将来の生活を職業との関連で考えるためのキャリア学習に活用されていた。このような形でキャリアマトリックスを活用して職業調べを行うことにより、職業との関連という明確な目的をもった進路指導を行うことができたとの感想が寄せられた。キャリアマトリックスの職業解説等は高校生以上を想定して記述されていることから、中学生にとってはやや難しいレベルであるが、適職探索ナビから入り自分の興味にある職業を検索する方法を取ることで、中学生の職業理解を深めることができるとされた事例である。またジョブギャラリーで視覚から入るとともに、ジョブタウンによる地理的な導入も併用することで、効果が上がるとの声も寄せられた。

この他、地域中学校共通の進路指導用資料集の中に、職業学習用資料としてキャリアマトリックスを紹介し、適職探索ナビ、職業検索、職業ギャラリー、ジョブタウンから職業を検索し、特に「就くには」の入職コースチャートの参照を推薦している事例があった。写真やチャートなど中学生がわかりやすい内容を活用して、職業を意識した進路指導を行うことが企図されていた。

## 2) 高校における活用

高校では自分の将来について考え、計画するためのキャリアガイダンスとして、さらに職業科や通信制・定時制の高校においては、就職活動の一環としてキャリアマトリックスが活用されていた。前者の将来計画のためのキャリアガイダンスにおける活用は、主に1～2年の授業でキャリアマトリックスの活用を体験したり、使い方を紹介することにより行われていた。活用方法としては、適職探索ナビによる自己理解から職業検索を行い、職業理解を深めるといった使い方が多かった。適職探索ナビの興味診断については、結果の信頼性が高いこと、簡便でコストがかからないこと、職業情報とリンクしていることに対する使いやすさに関する感想が多く寄せられた。

高等学校学習指導要領（2009）では、「学校においては、キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域や産業界等との連携を図り、産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験の機会を積極的に設ける」とされている。この職場体験前に、体験予定職業をキャリアマトリックスで検索し、職業解説、関連資格、就業者数や賃金、労働時間等に関する統計情報、写真等多角的な情報から体験予定職業を理解した上で、職場体験が行われている事例があった。

さらに注目されるのは、キャリアマトリックスで様々な職業を検索することが、職業の疑似体験ととらえられていたことである。ある定時制高校からは、社会を見る目が相対的に狭い生徒にとって、最初から実際の職業の体験的活動を行うことはハードルが高く、キャリアマトリックスの検索による職業の疑似体験が進路指導の初期に最適との声が寄せられた。また、教室には入れないが相談室登校がコンスタントな生徒のホームルームの時間に、家族の職業をキャリアマトリックスにより検索し、宿題で家族にインタビューを行い、家族の職業世界を知り、自己のキャリアを考えるきっかけとして活用された事例もあった。

キャリア教育は、キャリア形成弱者になりやすい人にこそ厚く、丁寧に実施されることが求められる。職業情報は、このようなキャリア形成弱者になりやすい人に対して、キャリア形成への入り口へと誘導する役割を果たすものとなっていた。

2～3年次での進路決定・就職活動に当たってのキャリアマトリックスの活用は、1～2年次での職業理解のための活用に比べて、より直接的なものとなる。進学先の専門分野の決定や求人職務の理解と求人選択を行うための詳細な情報を得る目的で、個別の職業情報が検索されていた。

さらに進路選択の最終段階である、高校生を対象とした大学フェアや就職のための集団面接会、大学のオープンキャンパスにおいて、キャリアマトリックスを活用した職業検索等の機会が提供されていた。これらの事例は、高校以外（需給調整機関、大学等）から、高校生の進路選択を支援するためにキャリアマトリックスによる職業情報が活用された事例である。

### 3) 大学、短大、専門学校等における活用

大学、短大、専門学校等（以下「大学等」という。）においては、大きく三様の活用があった。一つは、大学等の就職部やキャリアセンター等（以下「キャリアセンター等」という。）の学生の就職を支援する組織での活用で、活用方法は集団に対する活用指導、個別相談での活用の2通りに分かれた。

集団に対する活用指導は、キャリアセンター等が主催する職業情報の収集及び理解を指導するセミナーでの紹介や活用演習、ゼミ担当教官と連携したゼミ単位での就職準備指導におけるキャリアマトリックスの紹介であった。

個別相談では、キャリアセンター等に学生が自由に使うことのできるパソコンを設置し学生が自由にキャリアマトリックスを検索できるようにする、学生の検索結果をもとに相談する、学生と一緒に職員がキャリアマトリックスをみながら検討する、という多様な形態で活用されていた。

個別相談におけるキャリアマトリックスと民間サイトの活用については、まずキャリアマトリックスで職業理解を深めた後に、関連団体や企業、あるいは民間の学生対象の求人サイトを利用するという方法がとられていた。民間サイトは、民間独自の工夫がある一方で、取り上げる職業の偏りがあつたり、同じ職業が違う名称で呼称される場合がある。そこで、民間サイトを活用する際には、客観的で中立な基盤情報であるキャリアマトリックスと比較対照を行いながら、職業に関する現実的な検討を深めるという方法が取られていた。また民間サイトは利用に際して、個人個人の登録が必要な場合もある。個人の登録を必要とせず、誰でも無料で職業に関する基盤情報を手軽に入手できるというキャリアマトリックスの利便性も多く指摘されていた。

さらに学生から具体的な職業について相談があつた場合に、職員がキャリアマトリックスを使って情報を収集・整理して提供することも行われていた。このようにキャリアマトリックスは、学生本人、支援者の両方が活用できるツールとして利用されていた。

他の二通りの活用はともに大学等での授業における活用であった。その一つは学生自らのキャリアを検討するための授業（科目名は、「キャリアデザイン」等）での活用であり、もう一つは将来他者を支援するための授業（科目名は、「生徒指導」「職業指導」「職業カウンセリング」等）での活用である。

前者の学生自身のキャリア検討のための授業においては、多くの場合1コマないし2コマを使ってキャリアマトリックス活用の指導が行われた後、学生がキャリアマトリックスを体験するという内容であった。キャリアマトリックスの活用は、就職活動を行うためのハウツーを指導する以前に人生とキャリアを考えるための公平中立な職業情報を求めてのものであった。

後者の教職やカウンセラー養成科目等においては、自身の進路に関わる職業以外の理解が貧弱な学生が幅広くかつ深く職業を理解し、他者を支援することができるようになることを

目的として、キャリアマトリックスが活用されていた。教職科目以外においても、例えば自己のキャリアをデザインし他者のキャリアをサポートする人材の育成を図ることを目的とした学部においては、大学外で行う実習の前に、幅広い実習先（行政、企業、NPO等）で期待される役割を理解するために、個別面談やグループへのガイダンスとしてキャリアマトリックスが活用されていた。さらに大学生が、高校生を対象とした進学の意義や大学生活・研究の理解などのキャリアサポートのためのワークショップを行う前に、高校生からの質問や疑問に対応するため、キャリアマトリックスの利用方法の教授と学習が行われていた。

また看護学校や介護職を養成する専門学校において、入院患者や要介護者に対する理解をその人たちが従事していた職業の側面から深めるためのツールとして、キャリアマトリックスが授業の中で紹介されている事例もあった。

## （２）公共職業安定所等における活用

公共職業安定所におけるキャリアマトリックスの活用の対象者とその活用方法は、次のような三つの類型がある。

第一は、若者に対する活用である。若者が多く訪れる所でインターネットの使えるパソコンを用意して自由に使えるようにし、希望職業が分からない若者がキャリアマトリックスで様々な職業を検索して興味や関心のある職業の候補を探し、その後、公共職業安定所に設置されている求人検索機で具体的な求人を検索するという公共職業安定所の職業紹介に直結する利用方法である。ただし、公共職業安定所で利用者が自由に使えるインターネットに接続されたパソコンは多くはない。そこで、若年求職者に対してキャリアマトリックスを紹介し、自宅等で職業検索を勧めるという方法が多くとられていた。

また、学卒未就職者等、職業に対する視野が狭く限定された状態にある求職者に対しては、セミナー形式により、ジョブタウン、ジョブギャラリーをスクリーンに映し出して、社会における職業の広がりを見せることにより、職業に対する視野を広げることに活用されている事例があった。

第二は、中高年齢求職者に対する活用である。キャリアマトリックスでは「キャリア分析ナビ」で今までのキャリアからスキル、知識等を棚卸と整理を行うことができる。これにより、自らのアピールポイントを見出すとともに、スキル、知識に見合った職業を見つけ、求人検索機で具体的な求を探したり、希望する職業に就くための訓練の必要性や内容を検討することが、職員から提案されていた。キャリア分析ナビを活用して、それまでのキャリアにより獲得してきたスキルや知識、仕事環境面から、別の職業へのつながりや足りない部分を発見し新たな可能性へと探索を広げることは、中高年齢求職者の円滑な労働移動を支援するものとなる。

第三は、公共職業安定所の職員自身の活用である。求人票に記載されている仕事内容を深くあるいは詳細に知って職業相談に活かしたり、職業相談の過程で求職者に対して職業情報

を提供するために、キャリアマトリックスが職業辞典として活用されていた。

さらに、公共職業安定所以外の学校を離れた若者等や職探しに悩んでいる人に対するカウンセリング場面においても、キャリアマトリックスは、無料で使用できる自己理解、職業理解、職業選択支援ツールとして、キャリア・コンサルタントから多く活用され、支持されていた。

例えば、ある若者サポートステーションからは、視覚優位の情報を理解しやすい相談者へのキャリアカウンセリングのツールとしてキャリアマトリックスを活用し、キャリアマトリックスの画面を相談者自身が操作しながら、必要部分を印刷し、支援者が説明を行うことによって記憶の定着と相談再来に有効であったとの声が寄せられた。印刷した資料は、相談者自身がその相談内容を保護者へ説明するためにも活用されていた。

このような学生、求職者支援のための活用のほか、キャリアマトリックスは企業支援にも活用された。人材育成の専門的な知識やスキルが不足している介護事業所に対して、キャリアマトリックスの人事担当者向けの情報を紹介し、当該事業所の研修プランの作成に活用された事例がある。また経営コンサルタントからは、自動車整備士から自動車販売員への職種転換の成功事例の背景に、キャリアマトリックスの人材活用シミュレーションを用いた両者の職業プロフィールの近似性及び顧客満足度を上げることに関する自動車整備士の職業プロフィール上の優位性の確認があったとの報告もなされたことは、第5章の4で紹介したとおりである。

### (3) その他

キャリア・コンサルティングやキャリア教育に関する教科書的な書籍においてキャリアマトリックスは、職業に関する基盤情報システムとして、具体的な画面とともに紹介された(資料8参照)。

また、2008年から開始されたキャリア・コンサルティング技能検定試験(2級)の学科試験においては、「2 相談実施等に係る諸理論及び諸制度 ④仕事・職業に関する理解」の科目範囲の一環として、キャリアマトリックスに関する設問が例年出題された。

## 3. 活用の実際

キャリアマトリックス活用の実際について、高校、大学、若者支援機関における活用内容・方法等を紹介する。

なお活用の実際の記述については、確認(2010年9月)時点のものであることから、現在形で記述している。

## (1) 高等学校における活用事例 1－進路計画を立てる授業での活用

### 1) 職業興味検査と併用して1年生全員が授業で体験

進学・就職希望者を問わず、1年生の段階から自己理解と職業理解のもとに自らの進路計画を立てるためのカリキュラムを実施し、進路意識の啓発を図っている。当該カリキュラムの中で、「職業調べ」と「今年度の進路状況と今必要なこと」について教諭が1時限の講義を行った後、1学年全体を2グループに分け、職業レディネス・テスト(1時限)とキャリアマトリックスの活用(1時限)を交代で実施している。

キャリアマトリックスの活用体験は、生徒1人が1台のパソコンを使って行う。具体的には、教諭が授業の最初にキャリアマトリックスの内容と検索方法を説明(インターネットを立ち上げてキャリアマトリックスを検索→トップ画面から「生徒、学生、若者の方はこちら」を選択→「2. 職業の世界を知る」で職業検索、「3. 自分を理解する」で適職探索ナビを活用)した後、生徒が自由に検索する。その間、教諭は生徒達と会話しながら巡視する。大半の生徒は、適職探索ナビから入り、結果に表示された職業の検索をしている。授業の中盤で生徒の自由な検索をいったんストップして教諭が追加の説明を行い、その後検索を再開する。授業の最後で、教諭から職業理解の重要性を話して1時限を終了する。

このように、導入、中盤、終盤に教諭がサポートを行いながら、キャリアマトリックスを活用した授業が展開されている。

### 2) キャリアマトリックス活用に関する教諭からの評価等

ビジュアルなキャリアマトリックスと職業興味検査を併用することで周囲にいる友達との会話も弾む。その結果が生徒の自己理解と職業理解の促進へとつながっている。

キャリアマトリックスには、各職業について関連するサイトへのリンクがあり、リンク先から様々な関連情報を得ることができることも便利である。

また、家庭のパソコンからもアクセスできるので、家族と一緒に使って、家庭での話し合いができることも大きなメリットである。

## (2) 高等学校における活用事例 2－進路指導・個別相談等での活用

### 1) 科目選択から将来設計へとつなげるために生徒に活用を指導

進路指導担当教諭が、毎年高校1年の10月頃から、キャリアマトリックスの適職探索ナビを使って自分の興味を調べ、興味にあった職業のリストから職業検索をして、将来の職業に向けた2年生からの科目選択を考えるように指導している。

適職探索ナビの興味検査は、職業レディネス・テストの中から精選した項目から構成されているので非常に精度が高く、生徒本人の自己認識とよくマッチし、本人も納得する。このため、キャリアマトリックスは多くの生徒が活用している。

また、進路指導を行う教諭の側も、適職探索ナビの興味検査を通じて生徒の性格・職業適

性等を容易に把握できるために、信頼関係を形成し適切な進路指導を行うことができている。

このようにキャリアマトリックスは、自己理解から入り適職とのマッチングが示されることから、科目選択、職業選択はもちろんのこと、上級学校の学部学科検索にも活用でき、生徒が高校卒業後の将来設計を検討するための有効なツールとして活用している。

## 2) キャリアマトリックス活用に関する教諭からの評価等

適職探索ナビを活用することにより、生徒の性格・職業適性等に応じた職業について、一つだけでなく類似するものが多数示され、そこからすぐに職業情報を検索できるところが使いやすく、生徒が興味、関心をもって職業の世界に接近できるものとなっている。

また、職業情報も職業の変化（将来性、必要なスキル等）に対応した信頼性の高いものと認識している。

さらに、進路指導担当教諭に各職業に対する十分な知識がなくとも、キャリアマトリックスを利用することによって職業内容を把握することにより、適切な進路指導を行うことができることも、大きなメリットである。

## (3) 大学における活用事例1－キャリアデザインの授業での活用

### 1) 「キャリアデザイン」の授業で活用

1、2年生の必修科目である「キャリアデザイン」の授業でキャリアマトリックスを活用している。

1年生の授業でのキャリアマトリックスの活用は、広く職業について興味を持ち、幅広い職業理解を深めることを目的としている。

授業では、シラバスに沿って作成されたサブノートをもとに、キャリアマトリックスの機能や使い方を指導し、内省ワークや適性検査などで興味を持った職業について学生自身が調べる。特に携帯電話で調べられるキャリアモバ.jpを活用し授業内で職業内容を調べる体験は、学生の限られた知識をもとにした職業イメージを広げ、自分自身で調べ情報収集するという主体性を育成するために効果的であり、授業後学生から「手軽に職業について調べることができ、使いやすいツールであり、色々な職業に興味を持てた」という感想が多く得られる。

2年生の授業でのキャリアマトリックスの活用は、職業の内容を現実的に見て、評価することができるようになることを目的としている。

授業では、授業必携のサブノートをもとに、キャリアマトリックスの機能や使い方を指導した上で職業に関する課業分析の宿題を課している。宿題は、学生が職業を1つ選んで課業を調べ、重要と思われる課業の内容を課業の対象（情報、人、道具）、責任や危険度、肉体的・身体的負担、適性能力の面から多角的に検討する。学生は、大学のキャリアセンターや自宅のパソコンからキャリアマトリックスにアクセスして、職業情報を収集し検討することを課題学習の宿題としている。

## 2) キャリアマトリックス活用に関する教官からの評価等

キャリアマトリックスは、就職ガイダンス、職業理解、適性検査による自己理解等、キャリア教育の内容がすべて入っている総合的で非常に使い勝手のよい CACGs (Computer Assisted Careers Guidance System) である。また、職業の課業(タスク)がきちんと掲載されていることも大きな特長である。課業を見れば、各々の職業に就いた場合にどんな仕事をするようになるかが具体的に分かり、学生・生徒が、就職前から、就職を希望する職業のいい点(自分がやりたい仕事内容)ばかりでなく、悪い点(自分が不得手とする仕事内容)も適正に理解した上で、就職できることになる。

民間にも職業や求人に関する様々なサイトがあるが、それを適正に利用するためには、情報内容に対する物差しが必要となる。キャリアマトリックスは、職業に関する共通言語、共通基準を提供しており、民間の類似のサイトを見る際の情報内容を確認する物差し(情報インフラ)としての役割も大きい。

## (4) 大学生における活用事例 2 - 授業、キャリア支援室における個別相談での活用

### 1) 職業を調べるツールとして授業で紹介

大学生になっても職業をまだ知らないし、その調べ方についても知らないという学生は多い。このため、1年生全員を対象とした「キャリアデザイン」(学部共通必須科目)において、職業選択への導入として、キャリアマトリックスのパンフレットを配付し、適職探索ナビから職業検索へという使い方を紹介している。

### 2) キャリア支援室における個別相談で可能性を見つけ、求人へとつなぐ

キャリア支援室には、3年の夏くらいから「就職活動をしなければならないが、どうしたらよいかわからない」という相談で学生が訪れる場合が多い。また3年生の全てのゼミで各担当教員が就職への準備を促すこととなっており、ゼミ単位で就職への準備としてキャリア支援室が利用される場合もある。

学生は、職業について思い描いているものはあるものの、それはそれまでの経験からであり、範囲が狭い場合も多い。約 500 職業の情報が掲載されているキャリアマトリックスで検索することにより、学生の職業世界が広がり、求人を選択する際の幅を広げることができる。具体的には、適職探索ナビで自身の興味分野を確認した後、興味に対応した職業の検索へと進み、そこで自分の興味にあう様々な職業の内容を把握する。さらにキャリアマトリックスで紹介されている各職業の関連団体へのリンクを活用し、より詳細な情報を得た上で、具体的な求人を検討し、絞っていくという使い方、指導している。

### 3) キャリアマトリックス活用に関する支援担当者からの評価等

キャリアマトリックスは、公平な目で広く職業を調べることができる信頼性の高いサイト



である。民間の大学生用サイトの求人情報では、職業について様々な名称が使われていたり、実際の仕事内容がよくわからなかったりする場合があるが、その前にキャリアマトリックスで標準的な職業名と職業内容を把握しておくことで、個別の求人の仕事内容が理解しやすくなる。

さらに各職業の職業解説から、ハローワークインターネットサービスの求人へ直接連携がなされれば、一層利用価値が高まる。逆に公共職業安定所の求人から職業解説へと連携すれば、求人職業に対する理解が深まり、適切な求人選択を助けるものとなると考えられる。

また適職検索ナビは、高校生や大学生へのキャリアカウンセリングの導入ツールとしての利用価値も高い。より詳しいものとしてはキャリア・インサイトやVPI職業興味検査等があるが、導入段階としては、簡便な適職探索ナビの方が使いやすいと言える。

#### 4) 高校生に対する紹介

高校生向けの自己理解のためのテキストを作成し、入試説明会に参加した高校に周知するとともに、近隣および入学者の多い協力校などの中で、要望のあった高校に配付している。このテキストの中でも、職業との関連で大学を選択することの重要性から、職業理解のためにキャリアマトリックスを紹介している。また、オープンキャンパスでも、実際にパソコンでキャリアマトリックスを使って適職探索ナビやジョブタウンから職業検索を行うプログラムを提供して好評である。

#### (5) 民間若者支援機関における活用事例ーキャリアカウンセリングでの活用

##### 1) 対象者の年齢、ニーズ、レディネスとキャリア形成のステップにあわせた活用

キャリアカウンセリングでは、対象者一人一人の事情やニーズに合わせて、あらゆる資源を活用して支援する。クライアントの年齢、レディネス、相談目的、問題点とともに、キャリア形成の6ステップ（①自己理解、②職業理解、③啓発的経験、④意思決定、⑤方策の実行、⑥仕事への適応）のどの段階にいるのかを把握し、必要な情報を考慮する。キャリアマトリックスはキャリアカウンセリングの全ステップにおいて活用できる。

具体的には、キャリアの方向性がわからないというクライアントでは、適職探索ナビで興味や能力の特徴を確認した上で、職業情報検索を行う。

職業に対する漠然としたイメージしか持っていないクライアントに対しては、職業情報のなかの課業を利用して、職業イメージを明確化する。子どもが好きだから保育士になりたいという若者が、「子供たちの発達段階に応じた幼児教育をする」「保護者や関係機関との連絡をとる」等の保育士の課業を見て、保育士の仕事の奥深さと自分の苦手な分野の仕事内容があることを理解し、他の職業の検討に進むことができた事例がある。

職業のイメージが狭すぎるクライアントについては、ジョブタウン、職業ギャラリーを利用することにより、職業の広がりを感じてもらおう。

就職活動を行う段階のクライアントに対しては、キャリアマトリックスの各職業から関係

団体へのリンクや、ハローワークインターネットサービスを利用して求人情報を得る。またエントリーシートや履歴書を書く際に、適職探索ナビの結果や職業情報で得た情報、キャリアマトリックスに掲載されている「就職サポートブック」を参考にして、自己アピールできる点等を見出す。入職に必要な資格がある場合は、そのための能力開発方法を検討する。

進路や就職先が決まっているクライアントに対しては、適職探索ナビや職業情報から自分の選択や方向性を確認して進路選択のふり返しを行うとともに、課題の整理を行うことにより、適応を支援する。

## 2) キャリアマトリックス活用に関するカウンセラーからの評価等

キャリア形成の6ステップの全てで活用できる有用性のほか、キャリア情報としてのスタンダードが提供されている。このためカウンセラーは、クライアントの年齢、ニーズ、職業に対するレディネスにあわせて、様々に工夫して活用できる。

CACGsとしては、さらに職種の増加、学校を離れて孤立する若者に対するメール相談機能、入職段階で求められる課業の明示、能力開発情報等の充実が必要と考えられる。

## 文 献

文部科学省（2009）「高等学校学習指導要領」

文部科学省（2010）「大学設置基準」

文部科学省（2010）「短期大学設置基準」